

# 来週の「売り物」記事はこれ



2014年9月12日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 中沢啓治さん遺作の詩「広島 愛の川」

### 響け、「はだしのゲン」の祈り

14日(日)



原爆の悲劇を描いた漫画「はだしのゲン」で知られる故中沢啓治さん。2年前に73歳で亡くなり、遺品のなかから一編の未発表の詩が見つかりました。「広島 愛の川」——。〈ああ、川は 広島は 世界の海へ流れ行く〉と、広島から世界に平和を届けたいという祈りが込められていました。今年、その作品に作曲家の山本加津彦さん(34)が曲をつけ、歌手の加藤登紀子さん(70)がレコーディングしました。いま、広島各学校などでは、原爆への怒りと世界平和への願いを込めて、歌い継がれようとしています。その背景には、妻ミサヨさん(71)の〈被爆者である夫の怒り、悲しみ、そして優しさを伝えていきたい〉という決意がありました。もう一つの「ゲン」の物語を紡ぎます。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

## 新たな食のスタイルとして定着するのか？

### 都市部で増える高級食材の「立ち食い」店

夕刊2面特集ワイド 16日(火)



都市部を中心に今、高級食材を使った「立ち食い」店が急増しています。イタリアンやフレンチから和食まで、手頃な価格で本格的な料理を楽しめるのが特徴です。お昼時に記者が訪れた立ち食い専門のステーキ店でも老若男女が行列を作り、店側がさらなる出店を目指すほどの人気ぶりでした。日本には昔からすしやそばなどの立ち食い店がありましたが、高級食材の立ち食い店も定着していくのでしょうか。新たな食の最前線から記者が報告します。

## 「女の気持ちをたずねて」

おんなのしんぶん面 15日(月)



千葉県船橋市の芳川照代さん(62)は、今春、祖母である操さん(故人)が詠んだ短歌を集めた遺稿集を出版しました。操さんが一番多く詠んでいたのは、戦死した長男のことでした。遺稿集には祖母や母の写真も載せ、思い出を芳川さんがつづりました。



## 衣 「5歳若く」見せるコツ

くらしナビ 13日(土)



実年齢より少しでも若く見せたい、というのは年代を問わず、多くの女性の願望ですね。でも、年齢とともに肌や体形は変化するのに、メイクやファッションが昔のままで似合わなくなっていると、老けてみえる原因になってしまいます。適度に流行を取り入れながら「マイナス5歳」に見せるコツを専門家に聞きます。

## 女性クリニック番外編

くらしナビ 17日(水)、18日(木)

毎週日曜日に掲載し、女性の心や体のお悩みに答え、好評の「Dr.北村の女性クリニックへようこそ」。筆者の日本家族計画協会クリニック所長で産婦人科医の北村邦夫先生のもとには毎週たくさんの質問が寄せられています。番外編として中高年の「性」に関する悩みについて上・下2回でお答えします。



## 第17回アジア競技大会開催

19日(金)～10月4日(土)



アジアのスポーツの祭典「第17回アジア競技大会」が19日、韓国の仁川で開幕します。アジア大会は4年に1度開催され、前回の中国・広州大会では、日本は金メダル48個、銀メダル74個、銅メダル94個を獲得しました。今大会は36競技439種目で競われ、日本選手団は716人。昨秋に2020年東京五輪の開催が決まってから初めての総合大会として「東京世代」となる新戦力の台頭が楽しみです。毎日新聞は日々の競技を詳報するほか、外国人選手を紹介する「多士済々輝く」、海外や非五輪競技の事情を紹介する「韓流の地から」、若き東京五輪世代をクローズアップする「東京への光」など様々な企画を掲載します。また大会前の16～18日の夕刊1面には写真企画「仁川シージャ！」を展開します。シージャは日本語の「用意ドン」。仁川の日本人街など大会前に盛り上がる現地の様子などをお届けします。